

# 教育センター研修だより



南砺市教育センター

## 小学校外国語活動・外国語科導入に向けての研修会⑥

下記の通り、南砺市小中学校の先生方を対象に、小学校外国語活動・外国語科導入に向けての研修会を実施しました。

- |       |                            |
|-------|----------------------------|
| 1 日時  | 平成30年10月18日（木） 15：45～16：45 |
| 2 会場  | 南砺市役所井波庁舎 3階多目的ホール         |
| 3 講師  | 外国語専科教員 伊豆 多都子先生           |
| 4 参加者 | 小学校教諭 16名                  |
| 5 内容  | 小学校外国語活動・外国語科の活動例（講義と演習）   |



「読む」「書く」の指導の具体例を体験しましょう  
～ どのタイミングで どんな英語で 指示を出しますか ～

### 【伊豆先生からのメッセージ】



今や、人生全体に渡って、外国語が必要とされ、学び続けることが求められる時代です。その入門期に「外国語ってたのしい」「英語が聞き取れてうれしい」「ALTの先生と英語で話せた」という経験をたくさん積むことは、肯定的な学習の動機付けになります。難しい指導法にこだわらず、「どうやったら楽しくてたくさん英語に触れる活動が仕組めるか」を一番大切に、授業を構想していただきたいと思います。

### 【研修会の内容】

#### 1 アルファベット指導の体験

読み書きの基本である「アルファベットの導入の仕方」について学んだ。



間違えやすい「G」「V」「B」「L」の発音の仕方に注意する。特に「M」「N」の違いを強調して指導する。アルファベットの発音が単語の発音につながる。「子音」をしっかり指導する。



ALTには、「口の形、舌の位置を見せてあげて」と頼むとよい。



手を使って「R」の舌の位置を説明すると分かりやすい。



教師と子供役になり、アルファベットの指導の仕方を体験した。



教師が発音したアルファベットのカードを取るゲームをしながら、発音とアルファベットを一致させる。

「P」と「T」が間違えやすい。



アルファベットに慣れるために、アルファベット順にカードを並べる競争をする。横並べ、縦並べ等、目先を変えて取り組ませる。

## 2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を統合した活動の体験 【ライター・リポーターゲーム】

グループのメンバーがコミュニケーションを図らなければ、ミッションを果たせない仕組みになっているゲームである。



英文を書いたカードを事前に教室に貼っておく。(1カードに1文。今回は全部で9枚) グループ別に、リポーター担当者がカードを見付け、英文を覚えて、ライター担当者に英語で報告する。



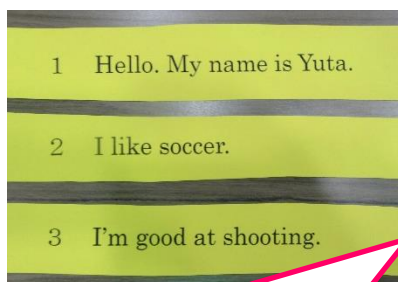
ライター担当者は、英語での報告を聞き取り、記録する。綴りが分からないときは、教え合ってよい。



全文をつなげて読み、意味を考えて、ワークシートに書かれた問いに答える。



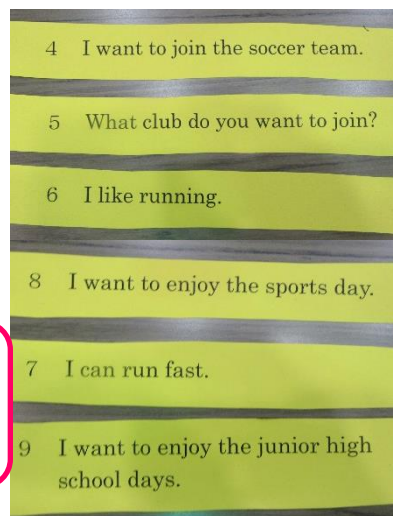
英文の意味をしっかりと考えて、問いに答えたグループから、「合格」となる。



### 【実際に使った英文カード】

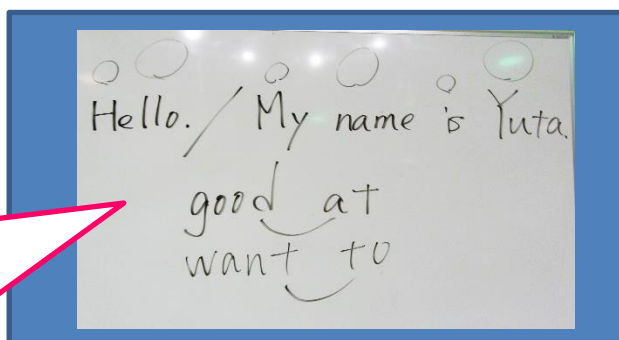
問い1 「だれが話しているか」

問い2 「何についてのスピーチか」



### 【英文を読む練習】

- ・強弱を○の大きさに表して読む。
- ・スラッシュ「/」を入れて読む。
- ・リンキング(文中の2つの単語が連結して発音が変わる現象) するところを見付けて読む。



## 参加者の感想より

- ・アルファベットの発音に関して、子供のつまずきを予想した上で、違いや発音のこつを分かりやすく指導することが大切だと感じた。「腕を使って口に見立てて手を動かしながら、舌の動きを説明する方法は、視覚的に分かりやすい。ぜひ実践していきたい。
- ・「『M』と『N』等、間違えやすい発音のアルファベットを取り出す」「リンキングするところを見付ける」「強調して言う単語を見付ける」などのポイントを意識して練習すれば、より英語らしい発音に近づくことを学んだ。
- ・子供たちは、恥ずかしがりながらも英語らしい発音で言えたとき、うれしそうな顔をしている。また、発音が上手な子供が話すと、周りの子供たちは憧れをもって聞こうとする。教師自らも英語らしい発音で話せるように、練習をする必要があると感じた。
- ・教師は、子供の前に立つ前に英文を読む練習をすること、さらに、ALTにも聞いてもらい、アドバイスを受けることもこれからますます大事になってくると思った。